2027 年度 杏林大学医学部付属杉並病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは，小児患者から超高齢患者まで，軽症例から超重症症例まで，診療科の幅も広く多種多様な症例を経験できる杏林大学医学部付属杉並病院を責任基幹施設としている．それに加え，様々なタイプの関連研修施設において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えるだけでなく，サブスペシャリティーの取得を念頭に準備をしながら研鑽を積み，研究マインドを持ち、地域医療にも貢献する麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

本研修プログラムの運営方針を以下に示す．

- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B），ペインクリニック・緩和医療を学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する．
- 基幹施設である杏林大学医学部杉並病院では，手術室での麻酔業務だけでなく術前回診、術後回

診、HCU回診、緩和医療回診に参加することにより、周術期全体的を通して全身管理が自然に身につくように、指導医の下で研修する．また，集中治療，緩和医療の研修も行い，麻酔科専門医に必要な基本的な知識，技術の習得を目指す．

・ 関連病院においては，各施設の指導医の下で研修を行う．産科麻酔（埼玉医科大学総合医療センター)、ペイン、緩和医療、新生児麻酔(杏林大学付属病院)、地域中核医療（所沢中央病院、東大和病院）１などの専門施設では各分野を集中的に研修する．

・ 地域医療維持のため，埼玉県（埼玉医科大学総合医療センター，所沢中央病院）の研修連携施設において研修を行う連携プログラムを準備している．

研修実施計画例

時期	ローテーション例			
	A（標準）	B（小児）	C（ペイン・緩和）	D（集中治療）
初年度 前期	杉並病院	杉並病院	杉並病院	杉並病院
初年度 後期	杉並病院	杉並病院	杉並病院	杉並病院
２年度 前期	本院(小児、心臓)	杉並病院	杉並病院	本院(小児、心臓)
２年度 後期	本院（ICU・ペイン・緩和）	本院(小児、心臓)	本院(小児、心臓)	本院 (ICU)
３年度 前期	関連病院	本院(小児、心臓)	本院（ペイン・緩和	関連病院 (ICU)
３年度 後期	関連病院	本院（ICU・ペイン・緩和）	本院（ペイン・緩和	関連病院 (ICU)
４年度 前期	杉並病院	杉並病院	杉並病院	杉並病院(HCU)
４年度 後期	杉並病院	杉並病院	杉並病院	杉並病院

研修施設の指導体制

本プログラム内連携施設の指導医を以下に示す．

①　専門研修基幹施設

杏林大学医学部付属杉並病院

研修実施責任者：鵜澤 康二

専門研修指導医：鵜澤 康二(手術麻酔，集中治療，緩和医療)
田渕 沙織(手術麻酔，緩和医療，小児麻酔)

専門医：増田　恵里香(手術麻酔、心臓麻酔)
腰原　美沙(手術麻酔、産科麻酔、区域麻酔)
久場　亜理沙(手術麻酔)
小松　えり（麻酔）

日本麻酔科学会麻酔科認定病院番号:140

東京都杉並区に位置する都市型の中核病院として、地域に根差した医療を提供しています。当院は、杏林大学医学部附属病院の関連施設として、病床数 340 床、教育・研修の質、特に「安全で確実な麻酔管理」と「急性期医療に対応できる人材の育成」に力を入れています。約 1800 症例の麻酔科管理症例があり、専門研修指導医、専門医が複数在籍し、マンツーマン指導によるきめの細かい指導を目指し、幅広い症例を経験でき、全身麻酔・区域麻酔・鎮静など多様な麻酔法を習得可能です。また、麻酔科医師の基礎的なスキルとして、集中治療管理や術後疼痛管理も経験でき、周術期管理に強く、実践的な臨床能力を有する麻酔科医を育成します。さらに、臨床における探究心、学会発表、研究活動に関しても積極的に支援します。

杏林大学医学部付属病院

研修プログラム統括責任者：森山　潔

専門研修指導医：	森山　潔	（集中治療）
	萬　知子	（手術麻酔全般・医療安全）
	鎮西　美栄子	（緩和医療）
	徳嶺　譲芳	（手術麻酔全般・医療安全）
	関　博志	（手術麻酔全般・周術期管理）
	小谷　真理子	（集中治療）
	藤井　範子	（心臓麻酔）
	渡辺　邦太郎	（区域麻酔・ペインクリニック）
	本保　晃	（周術期管理・産科麻酔）
	足立　智	（心臓麻酔）
	安藤　直朗	（手術麻酔全般）
	澤田　龍治	（区域麻酔・ペインクリニック）
専門医　　：	朽名　佳代子	（手術麻酔全般・緩和医療）
	江間　章悟	（産科麻酔・小児麻酔）
	吉川　貴紘	（手術麻酔全般）
	元山　宏展	（手術麻酔全般・集中治療）
	秋澤　千尋	（手術麻酔全般・ペインクリニック）
	小野　元彰	（手術麻酔全般・集中治療）
	川船　麦	（手術麻酔全般）
	齊藤　由希子	（手術麻酔全般・集中治療）
	平井　茉莉	（手術麻酔全般・ペインクリニック）

認定病院番号 147

東京都多摩地区の基幹病院です。多摩地域唯一の大学病院の本院で，年間約 7,000 件超の麻酔科管理症例があり、麻酔科専門医に必要な手術症例を偏りなく研修することができます。ロボット手術や大動脈ステント、TAVI、Mitra Clip といった先進医療や高難度手術の症例も経験可能です。術前診察外来、術後疼痛管理チーム、集中治療、無痛分娩、ペインクリニックの症例も豊富です。手術麻酔に限らず、周術期管理を通して、患者の安全に寄与できる麻酔科医の育成を目指しています。

独立行政法人国立病院機構災害医療センター

研修プログラム統括責任者：窪田　靖志

専門研修指導医：窪田　靖志　（麻酔全般、緩和医療）
白澤　円　（緩和医療・ペインクリニック）
神山　智幾　（麻酔全般、集中治療）
片山　あつ子（麻酔全般）

認定病院番号　745

立川昭和記念公園の隣に建つ、国際的な救急医療・災害拠点病院です。高エネルギー外傷をはじめ、多くの重症症例を収容・治療しています。地域がん診療連携拠点病院の指定も受けており、がんの手術も盛んに行われています。また総合病院でもあるため、様々な科の麻酔を経験できます。当研修プログラムでは手術室の麻酔を中心に研修を行いますが、特に区域麻酔（脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔、超音波ガイド下末梢神経ブロックなど）の教育に力を入れています。産科が無く、小児症例はほとんどないため、連携施設の症例に依存しています。
麻酔科管理症例数 2672 件

医療法人社団　和風会　所沢中央病院（以下，所沢中央病院）

研修実施責任者：　光田　将憲
専門研修指導医：　光田　将憲　（手術麻酔全般）
山科　元範　（手術麻酔全般，小児麻酔）
小澤　真紀　（手術麻酔全般）

認定病院番号：1824

地域の救急医療を担う 160 床の病院．麻酔科管理では年間 1400 件を越える症例があり主に整形外科，消化器外科の症例の他に呼吸器外科，脳外科，血管内治療の症例の麻酔管理を経験できる．小さな施設であり大学のようなソフト面，ハード面において充足しているわけではないので質の高い医療をどのように提供するかを個人レベルから考えなければならない，考えながら学ぶことのできる施設である。

社会医療法人財団大和会　東大和病院

研修実施責任者：高木　敏行
専門研修指導医：高木　敏行　（手術麻酔全般、医療安全、周術期管理）
村上　隆文　（手術麻酔全般、区域麻酔）
麻酔科専門医：遠山 光　（麻酔全般、区域麻酔）
認定病院番号：1189

東大和市内唯一の急性期病院であり、地域に根差した医療を提供する病院である。心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科などの手術を行っている。特に、緊急手術や循環器内科の協力のもと重篤な循環器合併症を有する患者に多く対応している。

医療法人財団　荻窪病院

研修実施責任者：吉松　貴史

専門研修指導医：吉松　貴史（心臓麻酔、ペインクリニック、手術麻酔全般）
窪田　敬子（心臓麻酔、手術麻酔全般）
古谷　明子（手術麻酔全般）
木村　斉弘（心臓麻酔、手術麻酔全般）
奥田　崇雄（手術麻酔全般）

麻酔科専門医：　伊藤　才季（手術麻酔全般）
佐々木　朱夏（手術麻酔全般）

認定病院番号：　1443

日本麻酔科学会麻酔認定病院、心臓血管麻酔専門医認定施設、総手術件数4,978件、内麻酔科管理症例数2,746件、内全麻症例数2,621件、人員体制は常勤医師７名（指導医５名、専門医２名）、非常勤医師５名

埼玉医科大学総合医療センター

研修実施責任者：鈴木 俊成

専門研修指導医：小山 薫 （麻酔，集中治療）
照井 克生 （麻酔，産科麻酔）
小幡 英章 （麻酔，ペインクリニック）
鈴木 俊成 （麻酔，区域麻酔）
田村 和美 （麻酔，産科麻酔）
佐々木 麻美子 （麻酔，小児麻酔）
山家 陽児 （麻酔，ペインクリニック）
加藤 崇央 （麻酔，集中治療）
田澤 和雅 （麻酔）
加藤 梓 （麻酔，産科麻酔）
北岡 良樹 （麻酔，心臓麻酔）
佐々木 華子 （麻酔）
金子 恒樹 （麻酔，産科麻酔）
吉田 由惟 （麻酔，産科麻酔）
伊野田 絢子（麻酔）
金子 友美（麻酔）
黒川 右基 （麻酔、集中治療）
坂本 尚子 （麻酔、集中治療）

岡田 啓 （麻酔、集中治療）
岩山 香坂 （麻酔、産科麻酔）
原口 崇 （麻酔、産科麻酔）
専門医：黒木 将貴 （麻酔、心臓麻酔）
大久保 訓秀 （麻酔、集中治療）
野口 翔平 （麻酔、産科麻酔）
松浦 千穂 （麻酔、産科麻酔）
篠崎 奈可 （麻酔）
永井 隆文 （麻酔）
高山 瑠衣 （麻酔）
木村 亜紀子（麻酔）
横谷 円（麻酔）
松本 木綿子（麻酔）
小島 拓也 （麻酔）
吉田 賢一 （麻酔）
境田 文威 （麻酔）

日本麻酔科学会麻酔科認定病院番号：390

県内唯一の総合周産期母子医療センターがあり、高度救急救命センターにはドクターヘリが設置されている．急性期医療に特化した麻酔管理のみならず，独立診療体制の産科麻酔，ペイン，集中治療のローテーションが可能で，手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる．

4. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）麻酔科領域，および麻酔科関連領域の十分な専門知識と技能
2）様々な場面に対する適切な臨床的判断能力と問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度や習慣
4）進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を希望する場合には、杏林大学医学部付属病院との連携は整っており、専門医取得後もセカンドキャリアの実現に向かって、協力体制が整っている。

② 麻酔科専門研修の到達目標

安全な周術期医療を提供できる十分な能力を十備えるために，研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

5. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得するために以下のような研修を行う．

臨床現場での学習計画

以下に示す様に，本プログラムでは十分な症例を経験することが可能である．

本研修プログラム全体における2024年度合計 麻酔科管理症例数：1749症例

杏林大学医学部付属病院手術症例	2025年度
小児（6歳未満）の麻酔	16症例
帝王切開術の麻酔	44症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	9症例
胸部外科手術の麻酔	46 症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

これらの症例を通じて麻酔科専門医として必要な知識・技術を習得する．

標準的な週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td>7:30 - 8:10</td><td colspan="4">術後診察/勉強会や症例検討会</td><td rowspan="8">外勤

指導医の下
関連病院で
麻酔研修</td><td></td><td rowspan="8"></td></tr>
<tr><td>8:10 - 8:30</td><td colspan="4">前日申し送り
麻酔症例カンファレンス</td><td rowspan="2">医局会
（月1回）</td></tr>
<tr><td>8:30 - 8:45</td><td colspan="4">HCU回診</td></tr>
<tr><td>9:00 - 12:30</td><td>麻酔</td><td>麻酔</td><td>麻酔</td><td>麻酔</td></tr>
<tr><td>12:30 - 13:00</td><td colspan="4">昼食</td><td rowspan="2">講演会
研究会</td></tr>
<tr><td>13:00 - 17:00</td><td>麻酔</td><td>麻酔</td><td>麻酔</td><td>麻酔</td></tr>
<tr><td>17:00 - 17:30</td><td>術前診察</td><td>術前診察</td><td>術前診察</td><td>術前診察</td><td></td></tr>
<tr><td>夜間</td><td></td><td></td><td>On Call</td><td></td><td></td></tr>
</table>

スケジュールは例：On Callや当直を約4回/月、外勤が1日/週の場合

勉強会/抄読会などの定期的な学習計画

・症例検討会・抄読会

杏林大学医学部付属病院で月1回程度実施される勉強会に出席する。症例検討会では麻酔管理困難症例や，合併症が起こった症例を中心に改善点を検討する．抄読会では麻酔科領域、集中治療領域の最近の原著論文やreviewなどを中心に行う。

・セミナー・講習会（月1回）

杏林大学医学部付属病院で月1回程度実施される中心静脈穿刺のハンズオンセミナーや困難気道管理(DAM) セミナー，外部講師を招聘するセミナーなどに出席する．

① 診療科での定期的な症例検討会

月曜日から金曜日の朝にすべての麻酔科管理症例に関してプレゼンテーションを行い，患者リスクの共有と麻酔方法の検討を行い、患者さんにとってより良い麻酔方法の検討を一例一例確実に行う．新規性の高い症例や周術期管理に問題点が残った症例に関しては，別途症例検討会を開催している．

② 関連診療科との定期的な症例検討会

術前から麻酔のリスクが高いと予想される症例や複数の診療科が関与する手術に関しては，関与する可能性のある診療科の医師，手術室看護師，臨床工学技士などを交えて術前合同カンファレンスを行っている．

③ プログラム全体でのカンファレンス等の学習機会

杏林大学医学部付属杉並病院で開催されるセミナーや症例検討会，外部講師を招聘しての勉強会など、積極的に参加するように臨床を調整する．

④ 学会/研究会などでの学習機会への計画的な参加

研修2年目までに日本麻酔科学会関東甲信越支部会，もしくは日本臨床麻酔学会学術集会での発表を必須としている．研修終了までに日本麻酔科学会年次学術集会やAnnual Meeting of American Society of Anesthesiologists での発表を目標としている．

⑤ 自己学習の環境（文献，教材へのアクセス）

教室内でも定期的に麻酔，集中治療関連の医学書を購入し，自己学習の環境を整えている．1日の業務終了時に、本日1日の振り返りを行い、臨床の問題点を抽出できるように配慮している。

リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画

① 習得すべき学問的姿勢

日常の臨床で得たクリニカルクエスチョンをそのままにせず，自ら研究計画を立てて実施していく姿勢を習得する．

② 実施すべき学術活動

次項に示す様に，研修2年目までに日本麻酔科学会関東甲信越支部会，もしくは日本臨床麻酔学会学術集会での発表を必須としている．研修終了後には，研究計画を立案し，研究実施，そして学会での研究発表、論文作成とスムーズに単独で実施できるようになることを目標とする．

③ 上記を習得/実施できるための研修計画

杏林大学杉並病院での臨床研修は、臨床が中心となるため、臨床で必要なスキルを確実に習得できるような環境を整えている。研修連携病院の杏林大学医学部麻酔科学教室では、様々な研究課題に対してにワーキンググループを設置し，研修期間中に本人の希望する分野を勘案し，本プログラム専攻医には、希望するワーキンググループに参加することができる環境を整えている．ワ―キンググループの上級医とともに研究計画の立案から実施を行い，研究成果の発表し、論文作成への力を習得していく．

コアコンピテンシーの研修計画

医療倫理，医療安全，院内感染対策などの学習機会

杏林大学医学部付属杉並病院では，医療安全，医療倫理，院内感染に関する院内講習会が定期的に開催されており，本プログラムの専攻医はその受講を義務としている．

地域医療に関する研修計画

① 地域連携プログラム

地域医療維持のため，埼玉県の下記研修連携施設において、一定期間(1年以上)の研修期間を定める連携プログラム（連携プログラムおよび連携プログラムのうち都道府県限定分を含む）を準備している．

② 研修施設群に地域医療・地域連携を経験するための施設

埼玉県：埼玉医科大学総合医療センター，所沢中央病院

東京都多摩地区：災害医療センター、東大和病院

③ 地域医療を経験する機会

本プログラムの連携施設には，上記のように，地方・地域医療の根幹を支えている病院での研修が可能であるのに加え，東京都内ではあるが多摩地域の中核を担う病院が含まれている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

④ 上記研修中の指導体制

上記の連携施設には必ず麻酔科学会指導医が常勤として勤務しており指導体制は十分である．

⑤ 指導体制が十分でない場合，指導の質保証の対策

上記の連携施設には十分な指導医の数と指導体制が整っているが，指導体制が十分でないと感じられた場合は，専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接，文書，電子媒体などの手段によって報告することが可能であり，それに応じて研修プログラム統括責任者および管理

委員会は，研修施設およびコースの変更，研修連携病院からの専門研修指導医の補充，専門研修指導医研修等を検討する．

6. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

【研修 1 年目に習得すべき知識・技術】

初期臨床研修終了時の麻酔経験や手技の習得状態に合わせて，後期研修開始時から指導内容を調整し，一年後には各自の習得状態に大きな差が出ないように個別に配慮していく．研修当初より，週に一回程度，地域の病院への派遣を行い，地域医療の一旦を担うことにより地域で求められる役割を学ぶ．
主な内容：硬膜外麻酔，分離肺換気，挿管困難時に用いるデバイスへの習熟，中心静脈カテーテル挿入，末梢神経ブロック，ハイリスク手術の麻酔，産科麻酔，小児麻酔（低難易度），外来での予定手術患者のリスク評価，地域医療

【研修 2 年目に習得すべき知識・技術】

１年目に比して，重症患者の麻酔・全身管理や，広い知識または特別な知識を必要とする臨床経験を経て，２年目の終わりには，指導医の指導下で単独に近い状態での麻酔の導入・抜管を行い，標榜医取得時点で安全に単独麻酔をできるような知識・技術の習得を目指す．手術室以外での麻酔科医としての臨床経験を積み，知識の幅を広げることを目指す．
主な内容：心臓外科麻酔，小児長時間大手術，新生児麻酔，大量出血症例への対応，急性期疼痛患者管理，集中治療室での患者管理，緩和医療

【研修 3，4 年目に習得すべき知識・技術】

すべての麻酔症例に対し，適切な術前および術後評価を行うことができ，患者を中心に考える周術期チーム医療を円滑に行うリーダーシップをとる能力の習得を目指す．同時に研究活動のワーキンググループの一員として研究活動への参加を開始し，リサーチマインドの育成につとめる．
主な内容：周術期管理センターでの術前診察研修，緊急手術や急変時の患者評価と治療計画の策定，研修医の指導，研究活動への参加

7. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，

各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

8. 専門研修プログラムの修了要件

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，本プログラムが本文中に示している「専攻医が習得すべき技能/知識」が到達目標に達しているかを判定する．

専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，相応しい水準に達している者のみ，プログラム修了とする．

また，本プログラム専攻医は，多職種合同のカンファレンス，回診へ積極的に参加する．その中で，当院の手術部看護師長，臨床工学技師長から，専攻医の研修達成度を文書で報告していただき次年度の研修の参考とする．

9. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

10. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとする．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する．就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する．

11. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．

妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して２年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．

２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし２年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．

専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

12. 専攻医の採用と問い合わせ

① 採用方法

定員：2名（予定）

選考は書類審査と面接にて行う．応募者多数の場合は，別途選考方法を通知する．専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，杏林大学医学部付属杉並病院麻酔科専門研修プログラム責任者まで、e-mailで連絡のこと。

担当者　　：　杏林大学医学部付属杉並病院 麻酔科 鵜澤康二

住所　　：　東京都杉並区和田 2-25-1
TEL　　：　03-3383-1281
E-mail　　：　kohji-uzawa@ks.kyorin-u.ac.jp